

2021年度

# 国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

Seminar Syllabus

明治大学

Meiji University

## 目 次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi? .....	2
2. 演習入室試験について（日本語版）	
演習入室試験日程 .....	4
演習入室試験受験上の注意 .....	6
演習入室試験申込手続 .....	7
3. Screening Information (in English)	
Screening Schedule .....	10
Important Notes .....	12
Application procedure for the Screening .....	13
4. 2021 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2020 .....	15
5. 演習概要（教員別） / Seminar syllabus	
01 ヴァシリウク, スヴェトラナ/VASSILIOUK, Svetlana .....	16
02 鵜 戸 聡 /UDO, Satoshi .....	17
03 呉 在 烜 /OH, Jewheon .....	18
04 大 矢 政 徳 /OYA, Masanori .....	19
05 小笠原 泰 /OGASAWARA, Yasushi .....	20
06 尾 関 直 子 /OZEKI, Naoko .....	22
07 岸 磨 貴 子 /KISHI, Makiko .....	23
08 金 ゼンマ /KIM, Jemma .....	24
09 クェク, マーリ J.N.H./QUEK, Mary .....	25
10 小 谷 瑛 輔 /KOTANI, Eisuke .....	26
11 小 林 明 /KOBAYASHI, Akira .....	27
12 小 森 和 子 /KOMORI, Kazuko .....	28
13 酒 井 信 /SAKAI, Makoto .....	29
14 佐 藤 郁 /SATO, Iku .....	30
15 鈴 木 賢 志 /SUZUKI, Kenji .....	31
16 瀬 川 裕 司 /SEGAWA, Yuji .....	32
17 田 中 絵 麻 /TANAKA, Ema .....	33
18 田 中 牧 郎 /TANAKA, Makiro .....	34
19 旦 敬 介 /DAN, Keisuke .....	35
20 張 競 /CHO, Kyo .....	36
21 長 尾 進 /NAGAO, Susumu .....	37
22 沼 田 優 子 /NUMATA, Yuko .....	38
23 萩 原 健 /HAGIWARA, Ken .....	39
24 廣 森 友 人 /HIROMORI, Tomohito .....	40
25 藤 本 由 香 里 /FUJIMOTO, Yukari .....	41
26 溝 辺 泰 雄 /MIZOBE, Yasuo .....	42
27 宮 本 大 人 /MIYAMOTO, Hirohito .....	43
28 森 川 嘉 一 郎 /MORIKAWA, Kaichiro .....	44
29 山 脇 啓 造 /YAMAWAKI, Keizo .....	46
30 横 田 雅 弘 /YOKOTA, Masahiro .....	47
31 渡 浩 一 /WATARI, Koichi .....	48
32 ワルド, ライアン/WARD, Ryan .....	49

## ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長  
鈴木 賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょうか」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はどうとう12回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、2年かけても何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

## What is zemi?

Kenji Suzuki

Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 12th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything, even taking two years, if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験日程

#### 1 演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画 配信

日程：11月2日（月）18：00～

方法：[WEB 配信](#)

#### 2 入室選考試験

##### （1）一次募集

①個別ガイダンス 11月9日（月）～11月11日（水）

[実施日時・会場] Zoomを使用したオンライン形式で実施。

※詳細は後日 Oh-o! Meiji で配信します。

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付 11月9日（月）12：00～11月12日（木）12：00

[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験 11月21日（土）10：00～

[試験会場] Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表 11月25日（水）

[発表場所] Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

##### （2）二次募集

①個別ガイダンス 12月 1日（火）～12月 3日（木）

[実施日時・会場] Zoomを使用したオンライン形式で実施。

※詳細は Oh-o! Meiji で配信します。（一次募集 合格発表時）

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付 12月 7日（月）12：00～12月10日（木）12：00

[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験 12月19日（土）10：00～

[試験会場] Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表 12月22日（火）

[発表場所] Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

##### （3）三次募集

2021年度4月に実施します。詳細は後日お知らせします。

### 3 留学をしている学生について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも、留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また、試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお、試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが、時差等による配慮を希望する場合は、E-mail等で演習担当教員へ各自、依頼をしてください。

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 入室試験の申し込みは、Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、各期限内に手続きをしてください。  
詳細は7ページ以降を確認してください。（締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。）
- 3 締切後に Oh-o!Meiji のグループを作成します。アンケートに回答した演習のグループに入っているか確認をしてください。
- 4 演習入室試験日程等演習に関する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji で配信します。演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 5 受験後に演習を変更することはできません。
- 6 同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 7 合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。ただし、4月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の下承を得たうえで、受験することが認められます。
- 8 4月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で4月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の下承を得なければなりません。  
4月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。
- 9 担当者の都合で3年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験申込手続

入室試験（一次・二次）の申し込みは、Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

- 1 「Oh-o! Meiji システム」 (<https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index>) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには、共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受け付けません。
- 2 自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら、アンケート「2021年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal interface. At the top, there are navigation tabs: HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. Below the navigation, there is a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section, and an '授業に関するお知らせ' (Notice regarding classes) section. The 'アンケート' (Survey) section is circled in black and contains the following information:

- アンケート
- 2021年度演習入室試験一次申込手続き
- 回答期日 2021/07/21



3 「2021年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので、必要情報を全て入力してください。

ME > アンケート回答 > トップ

2019年度演習入室試験一次申込手続き(20190820)	
回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答
登録部署: 中野教務事務室	
設問1	学年を選択してください。 Please select your year. <b>【必須】</b>
	<input type="text"/> ▼

4 すべて入力したら、「確認画面に進む」を選択してください。※まだ申込完了ではありません。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>【必須】</b>
	<input type="radio"/> 見ていない / I did not check any introduction. <input type="radio"/> 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line) <input checked="" type="radio"/> ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line) <input type="radio"/> 個別説明会・ホームページ両方 / Both
上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。	
<input type="button" value="保存せずに前の画面に戻る"/> <input type="button" value="確認画面に進む"/>	

- 5 入力内容の確認画面が表示されますので、必ず入力内容を再度、確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し、修正してください。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>【必須】</b>
ホームページ (オンライン) / Homepage (On-line)	

← 前に戻る

**回答する**

↑ Page Top

**入力内容確認画面を確認後、「回答する」をクリックすれば、申込完了です。**

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが、二次申込手続きも同様の手続きとなります。

## 3. Screening

### Screening Schedule

#### 1 Online video: Seminar Screening guidance video /Seminar Introduction video

The online video will be available from Monday, November 2.

Please check the [website](#).

#### 2 Seminar Screening

##### (1) Period 1

###### ① Individual guidance: Monday, November 9 - Wednesday, November 11

We will have an online seminar introduction via Zoom. Details will be announced on Oh-o! Meiji. Participating in individual guidance may be a condition for joining some seminars.

###### ② Application: Monday, November 9, 12 pm – Thursday, November 12, 12 pm.

Please apply from the questionnaire in Oh-o! Meiji.

###### ③ Screening: Saturday, November 21, 10 am

We will announce details with the group feature in Oh-o! Meiji.

④ Results: We will announce screening results with the Oh-o! Meiji group feature, from Wednesday, November 25.

##### (2) Period 2

###### ① Individual guidance: Tuesday, December 1 - Thursday, December 3

There will be an introduction for each seminar. We will announce details on Oh-o! Meiji with the results for Period 1. Participating in individual guidance may be a condition for joining some seminars.

###### ② Application: Monday, December 7, 12pm (noon) - Thursday, December 10, 12pm

Please apply from the questionnaire in Oh-o! Meiji.

###### ③ Screening: Saturday, December 19, from 10 am

We will announce details with the group feature in Oh-o! Meiji.

④ Results: We will announce screening results with the Oh-o! Meiji group feature, Tuesday, December 3, from 1 pm.

##### (3) Period 3

The third period will be in April 2021. We will announce details when decided.

### 3 For students who are currently studying abroad

If you study abroad in the Fall Semester of your second year or the Spring Semester of your third year, you must also follow the same schedule and take the same procedures as other students. Please note that all dates and times are in Japan Standard Time (JST).

Each instructor will conduct screening individually. We will generally hold the screening with the same schedule as other students. However, please contact each instructor by email if the time overlaps with your study abroad courses or if other problems need consideration.

### 3. Screening

#### Important Notes

Carefully read the following information before applying to Seminars.

- 1 The number of students to be accepted in each seminar is 10 to 21 students.
- 2 Please apply for Seminar Screening by answering the **Oh-o! Meiji questionnaire during each application period.** You cannot apply after the deadline. For step-by-step instructions, please see p.11.
- 3 We will create an Oh-o! Meiji group for each seminar after the deadline. Please check if you are placed in the seminar group that you applied for.
- 4 All notices will be sent by Oh-o! Meiji. Please check it regularly.
- 5 You cannot change the seminar you are applying after each period's application deadline.
- 6 You can only apply for one Seminar during each period. If you apply for two or more seminars during one period, all results will be judged as invalid.
- 7 If you pass screening for a Seminar, you are no longer qualified to take the screening in the next period. However, you are able to apply for the screening for new seminars in April. If you wish to change your seminar in April, please seek approval from the instructor of the first seminar.
- 8 It is generally possible to apply for screening at this time, even if you intend to later join a seminar which has screening in April. However, if you pass the screening in the Fall Semester, you will need approval of the instructor of the ongoing seminar before you can apply to the new seminar. If you plan to apply for a new seminar in April, make sure to confirm in advance with the instructor of the first seminar whether this can be accepted, during individual guidance, etc.
- 9 There may be seminars which are held only for the third year (two semesters). Details will be announced in each individual guidance.

### 3. Screening

## Application

For Period 1 and Period 2, please apply for the seminar screening from the Oh-Meiji! questionnaire. Please see instructions below.

- 1 Login to Oh-o! Meiji: <https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index>
- 2 Please choose [2021 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2021), and go on to the next page.



The screenshot shows the Meiji University portal homepage. The navigation bar includes 'HOME', 'クラスウェブ', '授業検索', 'グループ', and 'ポートフォリオ'. The main content area features a calendar for June 2017, a '個人宛 所属事務室からのお知らせ' (Personal notices from the department office) section, a '授業に関するお知らせ' (Notices about classes) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Other university notices) section. The 'アンケート' (Survey) section is circled in black, displaying the link for '2019年度演習入室試験一次申込み手続き' (Application for Seminar Screening 2021) with a return deadline of 2017/07/31.

- 3 Please fill out the required fields.

ポータルHOME > アンケート回答 > トップ

アンケート	
回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務室

質問1 学年を選択してください。  
Please select your year. **[必須]**

4 After you complete all questions, select [確認画面に進む](Next). You have not finished yet.

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>[必須]</b>
	<input type="radio"/> 見ていない / I did not check any introduction. <input type="radio"/> 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line) <input checked="" type="radio"/> ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line) <input type="radio"/> 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#) [確認画面に進む](#)

5 Please make sure to re-check your answers in the screen. If anything is wrong, choose [前に戻る](Back). If everything is okay, choose [回答する](Submit).

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>[必須]</b>
ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)	

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

↑ Page Top

※ You can change the information you registered until the deadline.

4. 2021年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2021

コード番号 Code	氏名 Lecturer	職名 Title	担当科目 Lecture Course	開講言語 Language
01	<a href="#">ヴァシリューク・スヴェトラナ</a> <a href="#">VASSILIOUK, Svetlana</a>	教授 Prof.	国際関係論 International Relations	英語 English
02	<a href="#">鵜戸 聡</a> <a href="#">UDO Satoshi</a>	准教授 Associate Prof.	フランス文化論 French Culture Studies	日本語 Japanese
03	<a href="#">呉 在恒</a> <a href="#">OH Jewheon</a>	教授 Prof.	日本のものづくり論 Japanese Manufacturing Management	日本語 Japanese
04	<a href="#">大矢 政徳</a> <a href="#">OYA Masanori</a>	准教授 Associate Prof.	英語学 English Linguistics	日本語 Japanese
05	<a href="#">小笠原 泰</a> <a href="#">OGASAWARA Yasushi</a>	教授 Prof.	日本のビジネス文化 Business Culture in Contemporary Japan	日本語 Japanese
06	<a href="#">尾関 直子</a> <a href="#">OZEKI Naoko</a>	教授 Prof.	応用言語学 Applied Linguistics	日本語又は英語 Japanese and English
07	<a href="#">岸 磨貴子</a> <a href="#">KISHI Makiko</a>	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	日本語 Japanese
08	<a href="#">金 ゼンマ</a> <a href="#">KIM Jemma</a>	准教授 Associate Prof.	アジア太平洋政治経済論 Asia-Pacific Political Economy	日本語 Japanese
09	<a href="#">クエク、マリー J.N.H.</a> <a href="#">QUEK Mary</a>	特任准教授 Associate Prof.	ホスピタリティ・マネジメント論 Hospitality Management Studies	英語 English
10	<a href="#">小谷 瑛輔</a> <a href="#">KOTANI Eisuke</a>	准教授 Associate Prof.	近現代日本文学 Modern Japanese Literature	日本語 Japanese
11	<a href="#">小林 明</a> <a href="#">KOBAYASHI Akira</a>	准教授 Associate Prof.	国際教育交流論 International Education and Exchanges	日本語 Japanese
12	<a href="#">小森 和子</a> <a href="#">KOMORI Kazuko</a>	教授 Prof.	日本語教育学(語彙) Japanese Language Teaching (Vocabulary)	日本語 Japanese
13	<a href="#">酒井 信</a> <a href="#">SAKAI Makoto</a>	准教授 Associate Prof.	日本のジャーナリズム Journalism in Japan	日本語 Japanese
14	<a href="#">佐藤 郁</a> <a href="#">SATO Iku</a>	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	日本語 Japanese
15	<a href="#">鈴木 賢志</a> <a href="#">SUZUKI Kenji</a>	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	日本語 Japanese
16	<a href="#">瀬川 裕司</a> <a href="#">SEGAWA Yuji</a>	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	日本語 Japanese
17	<a href="#">田中 絵麻</a> <a href="#">TANAKA Ema</a>	講師 Senior Assistant Prof.	テクノロジーと日本社会 Technology and the Japanese Society	日本語 Japanese
18	<a href="#">田中 牧郎</a> <a href="#">TANAKA Makiro</a>	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	日本語又は英語 Japanese and English
19	<a href="#">旦 敬介</a> <a href="#">DAN Keisuke</a>	教授 Prof.	ラテンアメリカの歴史と文化 Latin American Studies	日本語 Japanese
20	<a href="#">張 競</a> <a href="#">CHO Kyo</a>	教授 Prof.	比較文化学 Comparative Culture	日本語 Japanese
21	<a href="#">長尾 進</a> <a href="#">NAGAO Susumu</a>	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	英語 English
22	<a href="#">沼田 優子</a> <a href="#">NUMATA Yuko</a>	特任教授 Prof.	経営学 Business Administration	日本語又は英語 Japanese and English
23	<a href="#">萩原 健</a> <a href="#">HAGIWARA Ken</a>	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	日本語 Japanese
24	<a href="#">廣森 友一</a> <a href="#">HIROMORI Tomohito</a>	教授 Prof.	心理と言語 Psychology and Language Learning	英語 English
25	<a href="#">藤本由香里</a> <a href="#">FUJIMOTO Yukari</a>	教授 Prof.	漫画文化論 Manga Culture	日本語 Japanese
26	<a href="#">溝辺 泰雄</a> <a href="#">MIZOBE Yasuo</a>	教授 Prof.	世界のなかのアフリカ Africa in the Contemporary World	日本語 Japanese
27	<a href="#">宮本 大人</a> <a href="#">MIYAMOTO Hirohito</a>	准教授 Associate Prof.	日本漫画史 History of Japanese Comics	日本語 Japanese
28	<a href="#">森川嘉一郎</a> <a href="#">MORIKAWA Kaichiro</a>	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	日本語又は英語 Japanese and English
29	<a href="#">山脇 啓造</a> <a href="#">YAMAWAKI Keizo</a>	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	日本語 Japanese
30	<a href="#">横田 雅弘</a> <a href="#">YOKOTA Masahiro</a>	教授 Prof.	異文化間教育学 Intercultural Education	日本語 Japanese
31	<a href="#">渡 浩一</a> <a href="#">WATARI Koichi</a>	教授 Prof.	日本の文化伝統 Japanese Cultural traditions	日本語又は英語 Japanese and English
32	<a href="#">ワルド、ライアン M.</a> <a href="#">WARD Ryan</a>	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	日本語又は英語 Japanese and English



## 1. 演習のテーマ/ Theme

### “Japan’s International Relations in the Asia-Pacific Region”

This seminar offers lectures, discussions, and readings on Japan’s contemporary foreign policy with the focus on the Asia-Pacific Region (the APR), while reflecting on the history, policy foundations, and contentious issues in Japan’s relations with the region’s major powers. During the two years in this seminar, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare summaries, short reports, and news analyses pertaining to the topics covered in class. At the end of the 4<sup>th</sup> year, they will be required to write and present a research paper (thesis) covering one of the difficult and/or unresolved issues in Japan’s foreign relations in the APR.

## 2. 授業内容/ About the course

### (1) 授業の進め方/ How the course is conducted

**<3年次 / 3rd Year>**: This seminar will begin with an overview of Japan’s history of foreign relations, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan’s contemporary international relations in the APR. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in East Asia and Japan’s participation in major military conflicts of the 19<sup>th</sup>-early 20<sup>th</sup> centuries; the Pacific War (1937-1945) and its legacy in Japan and abroad focusing on Japan’s war crimes and war remembrance, reconciliation and other key issues in Japan’s relations with the APR countries.

**<4年次 / 4th Year>**: The seminar will continue tracking key issues in Japan’s contemporary relations with the APR major nations, while paying special attention to the rise of China and the impact of the declining power of the US – Japan’s top international partner and ally – in regional and global affairs. In preparation for the seminar’s final research project, students will study the origins, the history of negotiations, and the prospects for the settlement of Japan’s contentious issues in the APR.

**(2) ゼミ論の有無/ Thesis:** Yes

### (3) 評価方法/ Evaluation

**<3年次 / 3rd Year>**

News Portfolio 30%; Short Reports 30%; Presentations & Summaries 20%; Class Participation 20%

**<4年次 / 4th Year>**

Thesis 60%; Presentations & Summaries 20%; Class Participation 20%

## 3. 使用テキスト/ Textbook(s)

### REQUIRED BOOK:

TBA; some of the course reading materials will be distributed on the Oh-o!Meiji Class Web.

### RECOMMENDED BOOKS:

James L. McClain “Japan: A Modern History,” W.W. Norton & Company: New York, 2002.

Jeff Kingston “Critical Issues in Contemporary Japan,” Routledge: London, 2014.

Iokibe Kaoru, et al., eds., “History, Memory and Politics in Postwar Japan,” Boulder: London, 2020.

Lam Peng Er and Purnendra Jain, eds., “Japan’s Foreign Policy in the 21<sup>st</sup> Century,” Lexington Books: Lanham, 2020.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

This seminar will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this seminar (recommended minimum scores of TOEFL iBT 68, TOEIC 700, or IELTS 5.5).

## 5. 選考方法 / Screening

The students will have to write a short essay in English describing their interest in this seminar and its study topics.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

## 7. その他/ Others

Seminar events and additional information will be announced in class.

## 02 鵜戸聡 准教授

---

### 1. 演習のテーマ / Theme

#### 人文知と「近代」

現在も私たちの世界認識に大きな影響を及ぼしている「国民」や「人種」あるいは「文明」や「文化」といった諸概念は、いつどのように形成され、世界中に広まっていったのでしょうか。また、西欧諸国との接触を通して「近代」を経験したアジアやアフリカの人々はそれをどのように認識してきたのでしょうか。さらにその延長線上で私たちはどのような時代を生活しているのでしょうか。これらは非常に大きな問いではありますが、このゼミでは、19世紀から20世紀にかけて世界中で生まれた近代文学や映画を通してあれこれと考えてみたいと思います。最終的な目標は、卒業後も自分で本を読みながら「世界」と自分自身との関係を新しく結び直していくことができるような人文知を身につけることです。

### 2. 授業内容 / About the course

#### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

**<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>** まずは議論の足がかりとして、春学期に入門的な『野蛮の言説』、秋学期に国民国家論の古典『想像の共同体』を会読し、人種論や国民国家論の基礎知識を養います。特にこれらの著作で文学作品がどのように利用されているのかに注目しつつ、様々な文学作品や映画に触れてみます。世界的に読まれた西欧文学でもいいし、その影響下に書かれたアジア・アフリカの作品でもいいでしょう。その過程で、背景となる歴史や文化の知識、テキストの緻密な読解方法を学び、小発表を通して論理や表現の訓練を行います。希望があれば街を一緒に歩いてみるのもいいでしょう。

**<4年次 / 4<sup>th</sup> Year>** 各自で自由にゼミ論のテーマを決め、プレゼンや草稿の共有を通して第三者の観点を参考にしつつ、「自分は気づきつつあるけれども必ずしも他の人には明らかでないこと」をより明確に論じる訓練を行います。

#### (2) ゼミ論の有無 / Thesis 有り

#### (3) 評価方法 / Evaluation

**<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>** 平常点 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%) で行う。

**<4年次 / 4<sup>th</sup> Year>** 平常点 (30%)、発表 (20%)、論文 (50%) で行う。

### 3. 使用テキスト / Textbook(s)

中村隆之『野蛮の言説』春陽堂、2020年。/ ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、2007年。

### 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

世界の多様性に真摯に向き合い、さまざまな他者と、自分自身の意識せざる部分に対して好奇心をもって探求すること。

### 5. 選考方法 / Screening 面接。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特定の科目の履修を要件にはしませんが、英語によるものだけではない世界の文化や歴史に広く目を向けてください。

### 7. その他 / Others

コロナ禍の状況とゼミ生の希望に応じてフィールドワークやゼミ合宿を行う場合があります。また、鹿児島大学法文学部とのゼミ間交流を考えています（希望があれば、南米・中東・欧州・東南アジアなどで日本語を学ぶ学生との交流の機会を設けます）。

## 03 吳 在 焜 教授

---

### 1. 演習のテーマ

この演習では、日本企業のものづくりやマーケティング、そして経営戦略について学習します。日本企業のものづくりの仕組みや考え方、マーケティング活動、経営戦略に関する文献を購読します。製造業だけではなく小売やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、経営戦略やマーケティングの基礎理論を学びます。また、日本企業の国内事業だけではなく、日本企業の海外展開についても目を配ります。

このように幅広い内容の文献を購読しつつ、各自自分の関心・興味のある問題を研究テーマとして設定して、それを卒業までに研究していきます。このテーマ研究は論文形式ではなく、プレゼンテーション形式にまとめてゼミでの最終報告会で報告してもらいます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

3年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連理論書を読みます。3年次の秋学期には、多数の業種の事例を取り上げて経営戦略について説明する文献を購読します。毎回、一人が担当した部分の要旨を報告し、皆で議論して理解を深められるように進めていきます。

##### <4年次>

4年次の春学期には、日本企業の海外事業展開に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期は、文献購読とともに、各自のテーマ研究の中間報告を行い、演習の終わりころには、最終報告をしてもらいます。

#### (2) ゼミ論の有無

無い。

#### (3) 評価方法

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>

出席点 (30%)、議論への参加度 (30%)、報告 (40%) で行う。

<4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

出席点 (20%)、議論への参加度と報告 (40%)、テーマ報告の完成度 (40%) で行う。

### 3. 使用テキスト

文献は適宜紹介あるいは配布するが、3年春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著 (ちくま新書) を、秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹 (ミネルバ書房) を購読します。

### 4. 応募学生に望むこと

企業経営に関心を持ち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。  
無断欠席は厳禁です。

### 5. 選考方法

面接

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「経営学A」「経営学B」を履修しておくことが望ましい。

### 7. その他

3年次の夏休みに海外 (タイ・バンコク) でのゼミ研修を行う予定です。

## 04 大矢 政徳 准教授

---

### 1. 演習のテーマ

#### より良いコミュニケーションのための言語学

人間が言葉を使って互いの感情や思想を伝え合い始めて以来数十万年、そのメッセージの内容は実際のところ昔も今もさほど変わってはいないとしても、その手段は多様化・情報化・複雑化の一途をたどっています。“truth”と“fake”の境界線が曖昧になり、「いいね」の数が承認欲求を満たしても孤独感は払拭されない現代において、人間同士のコミュニケーションを深く理解することの重要性は、人間がAIに取って代わられることを良しとするのではない限り、誰の目にも明らかです。そのような文脈の中、本演習では「より良いコミュニケーションとは何か」、つまりは一見当たり前すぎるようにも聞こえるけれど誰もがいつかはどこかで考えなければならない話題について、言語学の観点から少しずつ学んでいきます。本演習で取り上げる主なトピックは、(1)語用論、(2)会話分析、そして(3)レトリックです。コーパス言語学についても触れます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

演習のテーマで紹介した(1)～(3)のトピックについて学んでいきます。適宜、個人またはグループでの発表を行います。発表の際に使用する言語は英語とします。3年次終了までにゼミ論の研究テーマを決定し、一年間の学習の総決算としてレポートを提出します。

##### <4年次>

ゼミ論作成を進めます。ゼミ論の内容についての発表を行います。

#### (2) ゼミ論の有無

有り

#### (3) 評価方法

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year> 授業への参加 50%、発表 30%、レポート 20%

<4年次 / 4<sup>th</sup> Year> ゼミ論 70%、発表 30%

### 3. 使用テキスト

串田秀也、平本毅、林誠(著)『会話分析入門』勁草書房

山本英一(著)『ウソと欺瞞のレトリック～ポストトゥルース時代の語用論～』関西大学出版部

### 4. 応募学生に望むこと

データに基づいて客観的に判断する思考力を養ってください。

### 5. 選考方法

志望動機書と面接で選考します。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

特にありません。

### 7. その他

## 05 小笠原 泰 教授

---

### 1. 演習のテーマ / Theme

デジタル・テクノロジー革新とグローバル化による世界の Grand Transformation について考える - 20年後に SURVIVE しているためには -

社会のシステムは、社会、経済、政治関係によって成りたっていて、歴史的にこの三つの力関係は大きく変化 (Grand Transformation) してきています。現在は優位になりつつある経済と権威と支配力 (パワー) を失いつつある政治 (国家) が対抗している状況と言えるでしょう。

「デジタル・テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、個人と企業がよりパワーを獲得する一方、国家はパワーを失ってきています。その中で、先進国では、国家に対してパワーを強めた (自律した) 個人とパワーを減じている国家に依存する、パワーが弱まった個人 (パワーの低下が止まらない国家は、彼らをパワーの再強化に利用します) への二極化 (分断と格差) が進行しつつあります。つまり、国家と企業と個人の3者間のパワーバランスが、「開いた世界」を志向する人々 (anywhere) と「閉じた世界」を望む人々 (somewhere) との間で異なっているということです。

トランプ大統領を選出した大統領選挙や Brexit の国民投票等の結果が示したように、この分裂は拮抗していて、自分の陣営により多くの人を引き込もうとする綱引きの状態であり、それは現在も続いていると思います。パワーが低下する国家は、国民国家という存在の性格上、より強い主権行使を望むので、コントロールしやすい「閉じた世界」に国民を引き込むことを望みます。事実、国家は、現在進行形のコロナウイルスの世界的蔓延を好機到来とし国家権力の再強化に利用しています。しかし、経済的裏打ちのない国家権力の強化は長くは機能しません。

問題は、今後の世界は「開いた社会」と「閉じた社会」のどちらに向かうかにあると思います。自由民主主義思想 (選択肢の拡大と選択の自由) と市場経済を批判するのは構わないのですが、経済力が弱まり、パワーが減じていく国家は、果たして「閉じた社会」を望む人々を救えるのでしょうか。強いアメリカを主張するトランプ大統領ですが、かえって、アメリカはイノベーションという成長のモメンタムを失い、国際社会での強さ、そして、権威さえも失うのではないのでしょうか。中国も現状政策の延長戦上ではアメリカと同じ道を歩む可能性が高いでしょう。

ポピュリズムの隆盛の本質は、多様化を認め、変化が当然の「開いた社会」を望む (あらゆる変化に可能性を見だし、国を消極的にしか必要としない) 人々と、多様化を認めず変化を拒否する「閉じた世界」を望む (あらゆる変化をリスクに感じ、国を積極的に必要とする) 人々の分裂が起きているということです。かつてのように、国境という高い壁を前提に国家が主権を単独で行使し、そのなかで企業・市場と国民 (個人) と国家のインタストは当然一致するという三位一体的な考えは急速に弱まりつつあると言えます。事実、自由民主主義思想がグローバルな形で個人や企業・市場に共有化される中で、国家のパワーの低下と言う大きな流れが反転することはないと想定しています。つまり、今後の世界では、もはや、国家は主権を単独で行使できる絶対的な存在ではなく、国家はグローバル化する世界の中でのプレーヤーの一つであると考えることが必要となります。つまり、企業・市場、個人と並んだ、相対的プレーヤーとしての国家とは、ど

のような存在であり、どのように変質していくべきであるかを見極める必要があります。それに応じて、企業や社会や個人の在り方も変化します。

このような急速な環境変化を踏まえて、ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考える、つまり、どう SURVIVE するかを考えるのが、ゼミのテーマです。

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

#### <3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>

- ★ グローバル化の進展とデジタル・テクノロジー革新による環境の変化を包括的に捉え、グローバリゼーションとはなにかについての認識を深めます。
- ★ 国家のパワーの低下と企業と個人のパワーの増大と社会の多様化についての認識を深めます。

#### <4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

- ★ ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考えていきます。
- ★ 上記を踏まえて、課題テーマについてのグループワークを行い、その結論をまとめてグループで発表します。

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

ナシ（代わりに卒業発表を行います）※ゼミ論を希望する人は、相談してください。

### (3) 評価方法 / Evaluation

#### <3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>

春学期・秋学期：定期発表(40%) 議論への参加・貢献度(30%) 各期終了レポート(30%)

#### <4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

春学期：定期発表(40%)、議論への参加・貢献度(30%)、春学期終了レポート(30%)

秋学期：定期発表(30%)、卒業グループ発表(70%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しません。 課題図書は適宜指定します。

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

加速するグローバル化とテクノロジー革新の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、多様性を受け入れられる学生を望みます。

## 5. 選考方法 / Screening

事前課題と ZOOM による面接とします。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

デジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味しているのかについて考えてみておいてください。

## 7. その他 / Others

Covit19 が収束していれば、夏休みには2泊3日のゼミ合宿を行う予定です。

## 06 尾関 直子 教授

---

### 1. 演習のテーマ

第2言語習得理論です。「どうすれば英語を早く上達することができるのだろうか?」、「日本語は文法を知らなくても話すことができるのに、英語は文法を知っていても話すことができないのはなぜだろう?」。そういう質問にすべて答えてくれるのが第2言語習得理論です。言語の学習方法、言語政策、言語教育など、言語に関係のあることに興味のある学生には楽しい学問です。授業では、理論に偏らず、実生活でどのように活用すればよいかも考えます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

**<3年次>** 毎週、教科書の担当部分について、グループもしくはペアで発表します。発表する内容は、担当部分の要約、その内容に関して調べてきたこと、担当部分に関しての自分たちの意見や考えです。また、内容に関して、ゼミでディスカッションができるトピックを提供することも必要です。発表担当以外の学生は、教科書の内容に関しての意見や考えをジャーナルに書いてくるのが課題となります。ちなみに、授業はすべて英語で行われます。授業の最初に、ジャーナルを交換し、お互いのジャーナルにコメントを書き、その後、発表担当者が発表をし、全員でディスカッションをします。授業は、プレゼンテーションやディスカッションが中心となるので英語力のアップも同時に期待できます。

**<4年次>** 就職活動があるので、自分のペースでゼミ論（卒論）を書きます。また、1か月に1度くらいの割合で卒論について発表します。卒論のテーマは、「第2言語習得」に関するだけでなく、「言語」、「国際」、「コミュニケーション」に関係していることがテーマであれば、かまいません。卒論は、日本語でも英語でも、どちらでもよいです。

#### (2) ゼミ論の有無 有

#### (3) 評価方法

**3年生** ディスカッションや授業への参加 50%、プレゼンテーション 30%、  
ジャーナル・ライティング 20%

**4年生** プレゼンテーション 30%、ゼミ論（卒論） 70%

**3. 使用テキスト** Benati, A. G., & Angelovska, T. (2016). *Second language acquisition: A theoretical introduction to real-world applications*. London: Bloomsbury.

### 4. 応募学生に望むこと

ゼミでは、真剣に勉強します。ただし、ゼミは、勉強する場であるだけでなく、仲間と共に人間的にも成長していく場であってはいけないと考えているので、ゼミ合宿にも積極的に参加したいと考える、やる気と体力がある学生は大歓迎です☆また、面白い学生も好きです♪

**5. 募集人員** 10名～15名

**6. 選考方法** アンケートと面接（留学中の学生はアンケートだけです。）面接はZoomになると思いますが、宜しく願いいたします。

### 7. その他

コロナが終息したなら、夏休みにはゼミ合宿をして、研究成果を発表してもらいます。もし、終息しなかった場合は、一度くらいは会いたいですね。勉強をしながら、楽しいゼミにしていきたいと思います！また、相談等ある場合はZoomで相談できます。LINEで連絡してください。

# 07 岸 磨貴子 准教授

## 1. 演習のテーマ

教育学 (Educational Technology)

岸ゼミでは、学びのデザイン×ダイバーシティ×ICTをキーワードとして、活動と研究を行います。「教育学」は、「問題解決の学」です。ゼミ生の興味・関心、問題意識から、自分たちでプロジェクト（活動）を立ち上げ、取り組み、社会に働きかけ、それを論文やメディア制作としてまとめていきます。

ゼミでは、学びのデザインを理解するために心理学と教育学を、文献を読み、対話を通して学びます。また、All Starsな（誰もがそれぞれの才能と強みを発揮できる）学びをデザインできるように、協働的に活動を作っていきます。そのプロセスで、多様な ICT 機器を道具として利用していきますので、メディア活用、メディア表現力も高めていきます。

ゼミ生の研究フィールドは多様です。学校教育、NPO/NGO の活動、オンラインでの協働、海外（特に途上国）、難民支援などです。詳細は、ゼミのウェブページをご覧ください。

岸ゼミウェブ <http://m-kishi.com/>（明治大学 岸ゼミでも検索可！）

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

**<3 年次>** 3 年次では、ゼミ生は、自分の興味関心を広げ、深めるために様々な活動に参加します。ゼミ生全体で「新しい学び」の経験を共有し、それに関する文献について輪読をします。

**<4 年次>** 4 年次では、ゼミ生は自分の研究を進め、ゼミで報告をします。最終的には卒業論文または卒業制作という形で研究成果をまとめます。

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」をご確認ください。

※ゼミ生によるプロジェクトは、岸ゼミのウェブ→「プロジェクト」「卒業研究」からご覧いただけます。

### (2) 卒業研究

ゼミ生は、卒業プロダクトとして、論文またはメディア制作（ミュージカル、絵本、映像、ウェブなど制作、ワークショップの実施、教材の開発）に取り組みます。

### (3) 評価方法

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」に、目的、方法、評価を明記していますのでそちらをご覧ください。

## 3. 使用テキスト

適宜、指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

- ・ 2年間ゼミ活動に最後まで取り組める人
- ・ プレイフルに、協働的に、自分のやりたいことに一生懸命に取り組める人を歓迎します。

## 5. 選考方法

志望動機書と面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

- ・ ゼミのウェブを事前に確認し、ゼミの内容や方法をしっかり確認してください。

## 7. その他

- ・ ゼミ入室後でも構いませんので、インターネットと社会 A/B、メディアリテラシー A、教職課程の学生は教育の方法と技術を受講してください。



# 08 金ゼンマ 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

### グローバル化とアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN+3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

毎回、担当者2名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメンテータ2名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

#### <4年次>

3年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

### (2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

### (3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)

<4年次> 平常点(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

## 3. 使用テキスト

適宜指示します(英語と日本語の文献)。

## 4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

## 5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

## 7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。

## 1. 演習のテーマ/ Theme

“Perceptions of host communities and visitors in Japanese tourism development”

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. The hosting of Rugby World Cup (2019), Olympics in Tokyo (2020) and World Expo in Osaka (2025) are expected to escalate further growth in tourist arrival. As in all tourism development, a sustainable industry is essential to support the economic activities of the country. Local communities' perceptions of tourists and their participation in tourism development are essential to drive a sustainable growth. This course furnishes students with greater understanding of tourism as an increasingly important economic activity for Japan, in addition to the need to mitigate any negative impacts as an outcome of such growth.

## 2. 授業内容/ About the course

### (1) 授業の進め方/ How the course is conducted

**<3 年次 / 3rd Year>**: The activities enable students to gain first-hand experience in data collection and analysis and enhance their critical thinking and writing skills. Depending on how the COVID-19 situation evolves, students will have the opportunities to refine their interactive skills by meeting people from all walks of life.

**<4 年次 / 4th Year>**: Students have the option of extending their project from the previous year, or start a new one. The extended project must relate to academic debates that are relevant to the topic under discussion.

**(2) ゼミ論の有無/ Thesis**: Not required.

### (3) 評価方法/ Evaluation

**<3 年次 / 3rd Year>**

Attendance and active participation 50%; Report or presentation 50%

**<4 年次 / 4th Year>**

Attendance and active participation 30%; Report or presentation 70%

## 3. 使用テキスト/ Textbook(s)

None.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

- 1) The seminar sessions will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this course.
- 2) Applicants need to be interested in the hospitality and tourism businesses.
- 3) Students have to be a people person because of the nature of the hospitality and tourism industries.
- 4) Students are required to attend seminar sessions regularly and be punctual for class.
- 5) Any student who is absent twice or more times, except for absences that fall under documented emergencies, will receive a fail grade.

## 5. 選考方法 / Screening

- A short essay and an interview.
- Students will submit a short essay in English describing their interest in this seminar via email to the tutor, three days before the interview.

Essay specifics:

Arial font; Font size 12, 1.5 spacing, 200 words (+/-10%).

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

None.

## 7. その他/ Others

- Seminar events and additional information will be announced in class
- This syllabus/schedule may change depending on participant numbers.
- The seminar may offer excursions to experience fieldwork.
- Students will incur small out-of-pocket expenses.

# 10 小谷瑛輔 准教授

## 1. 演習のテーマ / Theme

### 日本近現代の文学/文化

文学は、読者自身が関心を持って考えていることを映し出す鏡でもあり、それについて学び考えることを助けてくれる、豊かな知の資源でもあります。だから文学研究というのはもしかすると、文学作品を通じて何をどのように考えることもできる、最も自由な学問分野と言えるかもしれません。そもそも何を「文学」作品と見なすのか（小説や詩のこと？批評や演劇や映画は？純文学もエンタメ小説も？）も、人によって大きく違います。私自身、そうした自由さに惹かれて文学研究の道に進みました。

このゼミでは、文学やそれと関わる文化事象を題材に、日本の近現代に産み出されてきたこの知的資源のポテンシャルを最大限に引き出すための技術や方法論を身に付けつつ、相互の関心や知識から学び合い、最終的にはそれぞれが自分なりの研究テーマを設定して成果を出していくことを目指します。

## 2. 授業内容 / Activities

### (1) 授業の進め方 / Proceeding

#### <3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>

それぞれが関心のある対象を選び、研究したことを発表し、発表者以外の参加者も作品を読んできて、発表を踏まえて全体でディスカッションする、という形式が中心となります。1年間を通して、資料調査力、文章の読解・分析力や、レジュメやレポートで自分の考えを論理的にまとめる文章作成能力、プレゼンテーションの技術、ディスカッションのためのコミュニケーション能力を身に付けていきます。

また、ゼミ生のアイデア次第で、文学との多面的な関わり方を知るためのゼミ活動を取り入れます（たとえば小谷のこれまでのゼミでは、同人誌を作ったり、文学作品の中に登場する料理を再現したり、文学散歩や「聖地巡礼」を企画したりしてきました）。

#### <4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

各自でゼミ論のテーマを決め、そのテーマについての研究を発表して、ディスカッションを行います。そこで得られた視点や知見を活かして改めて研究を進める、という過程を通して、それぞれのゼミ論を完成させていきます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis 有り。ただしゼミ生の学修の希望や状況によって応相談。

### (3) 評価方法

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>平常点 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%)

<4年次 / 4<sup>th</sup> Year>平常点 (30%)、発表 (20%)、論文 (50%)

3. 使用テキスト / Textbook(s) 基本的には、回ごとに発表者が選んだ作品を扱います。

## 4. 応募学生に望むこと / Requirements

ゼミが有意義なものとなるかどうかは、ゼミ生自身の積極的な参加次第です。自分が何をしたいかを考えて、活発にコミットして貰えればと思います。

## 5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / Required activity that will have been done the start of the seminar

自分は何に関心があるのか、色々な本を読みながら追求しておきましょう。

## 7. その他 / Others

ゼミ行事は履修者の希望に応じて決めます。

# 11 小林 明 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

国際教育交流の理解と実践

このゼミでは「国際教育交流は国際平和実現の礎」と位置付けて、国際教育の概念を理解した上で、学校教育における海外留学や交流プログラムなど国際教育交流の実態を調査し、国際教育交流の果たす役割や効果を学ぶとともに国家・地域間および文化間の平和的な共存を推進する理想的な国際教育プログラムを模索します。学内の国際化にも積極的に参加します。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

ユネスコの「国際教育の勧告」について学び、日本の取り組みを調べることで国際教育の理念と実際について理解を深めます。特に国内の中高等教育機関における国際教育交流の具体的な取り組み(留学プログラムや活動とその効果)について調査します。

#### <4年次>

国内外の大学の国際教育交流プログラムについて調査し、理想的な取り組みやその効果について分析します。その結果を踏まえて中高等教育における国際教育交流のあり方を構想します。

### (2) ゼミ論の有無

無し(ただしE-book等、何らかの形で成果を発表する。)

### (3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)で行う。

<4年次> 平常点(30%)、発表(30%)、レポート(40%)で行う。

## 3. 使用テキスト

『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』

横田雅弘・小林明編 発行：学文社

『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト』

横田雅弘・太田浩・新見有紀子編 発行：学文社

## 4. 応募学生に望むこと

国際教育交流および異文化感性の向上に興味を持ち、積極的にゼミに参加できること。無断欠席、遅刻は厳禁で、海外研修費(約15万)を自力で捻出する気力がある者。

## 5. 選考方法

筆記試験と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「海外留学入門A」「国際教育交流論A」を履修しておくことが望ましい。

## 7. その他

夏休み又は春休みに3、4年生合同で3泊4日程度のゼミ合宿研修を行う。場所は研修内容により海外で実施することもある。

# 12 小森 和子 教授

---

## 1. 演習のテーマ

第二言語としての日本語の語彙習得

日本語では「薬を飲む」と言うのに、中国語では「吃（食べる）药」と言い、英語では「take（とる）medicine」と言います。＜薬を体内に入れる＞という同じ現象を表すのに、使う動詞は言語によって異なることがあります。そこで、本演習では、どのような表現が日本語特有なのか、それはなぜか、について考察します。また、教材と担当者を決め、留学生向けの日本語の模擬授業を行い、実践的にも日本語教育を学びます。

さらに、希望する学生には、私が担当する English Track 留学生向け日本語科目「初級日本語」（水曜2限）で、「ゲームで学ぶ初級漢字」の指導を担当してもらっています。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期は、日本語に特有の表現について、なぜ、日本語ではそのように言うのかについて、他の言語と比較しながら、認知言語学の理論を学びながら、考えていきます。秋学期は、春学期で学んだことを基に、全員でテーマを設定し、留学生を対象に調査を行います。

#### <4年次>

実践と理論の両立を目指し、春学期は、論文講読と日本語の模擬授業を行います。秋学期も模擬授業は継続し、さらに、それぞれが研究テーマを設定し、論文を執筆します。

### (2) ゼミ論の有無

有り

### (3) 評価方法

出席と議論への参加（20%）、発表（30%）、レポート（3年次）・論文（4年次）（50%）。

## 3. 使用テキスト

榎山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社他、授業時に指定。

## 4. 応募学生に望むこと

留学生に日本語を教えてみたい人、将来日本語教師になりたいと思っている人、海外で日本語教育に携わってみたい人、大学院で専門的に学びたいと思っている人、大歓迎です。

## 5. 選考方法

筆記試験と面接

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミ入室までに学部開設科目の「日本語教育学」はぜひ履修しておいてください。

## 7. その他

# 13 酒井 信 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

メディア文化論、ジャーナリズム研究、情報社会論

本演習では広義の Media Studies に関する必読書を精読し、自己の切り口から分析成果の発表を行うことで、メディア文化に関する知見を身に付けることを目指します。またジャーナリズム研究の実践的な学びの機会として、既存の雑誌や新聞、書籍、Web上のメディアなどを参照しながら、横断的な情報収集・メディア分析を行います。その上で、国内外の社会事象や文化事象に関する分析を行い、文章にまとめ、公表します。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

- ① 広義の Media Studies に関する文献購読。言説分析に関するプレゼンテーション。
- ② Web上のメディアの分析。Web上のメディア環境が持つ諸問題と可能性の双方に関する情報メディア研究。
- ③ 海外メディアが配信するニュースと報道の文脈の比較分析。比較メディア文化論。
- ④ 紙媒体のメディア（週刊誌・月刊誌の比較分析）の研究。テーマを定めたメディア史研究。
- ⑤ ジャーナリズム研究・文芸メディア研究の実践としての文章の執筆、創作。

#### <4年次>

3年時の1～5の何れかの研究の方法論を選び、テーマを定めた上でゼミ論（卒業論文）を執筆する。定期的にテーマの設定や研究方法、論文執筆について、発表・講評・相談の機会を設ける。広義の Media Studies に関する研究・実践であれば、テーマ選択の自由度は高い。

### (2) ゼミ論の有無 有

### (3) 評価方法

<3年次> 授業参加・貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 授業参加・貢献（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

## 3. 使用テキスト

『メディア・リテラシーを高めるための文章演習』酒井信（2019年）発行：左右社

## 4. 応募学生に望むこと

広義のメディア研究に興味を持ち、積極的に授業に参加できる学生を望みます。無断欠席、遅刻は厳禁です。

## 5. 選考方法

志望理由と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

下の教員の個人ページ記載の著作や原稿を、できるだけ読んでおいて下さい。

<https://makotsky.blogspot.com/>

## 7. その他

「ジャーナリズム研究概論」「日本のジャーナリズム」を卒業までに履修してください。各課題を通して、手を使って情報を漁り、足を使って様々な人や場と関わり、頭を使ってその成果を論理的な文章としてまとめ上げるトレーニングを積んで下さい。

# 14 佐藤 郁 専任講師

## 1. 演習のテーマ

インバウンドツーリズム、観光による地域活性化

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界を知ること、そして観光の本質である「地域との関わり」への理解を深めることです。本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携した PBL (Project-Based Learning) 型の学びを通じて、チームワーク、企画力、交渉力、プレゼン力（「想い」を伝える力）の習得を目指します。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事を多角的にとらえる視点を養います。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、4～5名のグループ単位でフィールドワークを実施し、中野区の観光資源を発掘して、その魅力を観光情報サイトで発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。

#### <4年次>

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

### (2) ゼミ論の有無

有

### (3) 評価方法

3年次：平常点(40%)、グループ発表及び議論への貢献度(30%)、最終レポート(30%)  
によって総合的に評価する。

4年次：平常点(10%)、発表(30%)、論文(60%)によって総合的に評価する。

## 3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

## 4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に)グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。共創型ディスカッションを通じて、ゼロから新たなアイデアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。その他、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

## 5. 選考方法

小論文、志望動機書、自己紹介書、自己PR動画、の4点による選考を行う。2年次春学期までの成績も参考にする。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントAB」を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関わるニュースメディアや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

## 7. その他

連携機関の都合や受講生の要望・理解度により、内容を変更する場合があります。

# 15 鈴木 賢志 教授

---

## 1. 演習のテーマ

スウェーデンに発信し、スウェーデンから学ぶ

本演習は、スウェーデンに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、①日本に興味を持つスウェーデンの人々とのコミュニケーションを通じて、彼らが日本をどのように認識しており、どのような情報の発信が望まれているのかを理解し体感する。さらに②スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのか、その可能性や限界について考察する。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期は、スウェーデンについての基本的な知識を吸収しつつ、スウェーデンの人々との交流や大使館でのイベントなどの様々な機会において、スウェーデンの人々が日本や日本人をどのように認識しているのか、どのような情報が求められているのかを、実践を通して学んでいく。秋学期は、春学期の経験を踏まえて、スウェーデンと日本の比較についての学びをさらに深めていく。

#### <4年次>

春学期は、スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのかについて議論し、それをどのような形で卒業発表に結実させるかについて討議し、計画を策定する。秋学期は、策定した計画に基づき、スウェーデン大使館において、主にスウェーデンに興味を持っている日本人を対象として行われるスウェーデン社会研究所のセミナーとして卒業発表を行うべく、その準備を行う。

なお授業では、スウェーデンと日本の現状や社会システムについての解説や、スウェーデンの人々とのコミュニケーションや研究に役立つよう、初歩的なスウェーデン語の講義を織り交ぜていく予定である。

### (2) ゼミ論の有無

上記のゼミ活動を通じて得た知識をもとに論文執筆を希望する者については指導を惜しまないが、執筆を必修とはしない。

### (3) 評価方法

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

## 3. 使用テキスト

特に指定しない。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミの活動は、スウェーデン大使館のイベント参加や現地での研修(参加は任意)など様々な広がりをもって行うので、座学に限らず、何事にも積極的に取り組む方の参加を望む。

## 5. 選考方法

小論文(応募理由)の評価を中心に、2年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。場合によっては面接を実施する。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

鈴木担当科目を履修している方が望ましい。

## 7. その他



# 16 瀬川 裕司 教授

2022 年度春学期は教員が在外研究で日本にいない可能性があります。その場合、秋学期に「演習（4 年）A」「演習（4 年）B」を実施します（連続して 2 コマの授業をおこないます）ので、ご注意ください。

## 1. 演習のテーマ

### 高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

**<3 年次>** 毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、テーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

**<4 年次>** 2022 年度にかぎり、春学期は授業をおこなわず、秋学期に「演習(4 年)A」「演習(4 年)B」の 2 コマを実施する予定です。

各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。毎週の授業では、ひとりもしくはふたりが自身のテーマに関連する批評文・レポートを提示し、口頭発表をおこなったのち、全員でその内容について意見を交換する。必要な場合には、授業時間中に関連作品を DVD 等で鑑賞する。最終的に、そういった発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

### (2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合は、レポート提出、口頭発表等で代用できる。

### (3) 評価方法

**<3 年次>** 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

**<4 年次>** 毎回授業時の発表(65%)、学期末のレポートもしくはゼミ論(35%)で評価する。

**3. 使用テキスト** 授業時に指示する。

## 4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、文章を書くのが好きで、積極的に意見を述べられる学生、もしくはそのようになりたいと考える学生が望ましい。

**5. 選考方法** 必要な場合には、アンケートなどを実施する場合もある。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦（はすみ・しげひこ）氏の映画関係の著作を演習開始前に 2 冊程度読んでおくことが望ましい。

## 7. その他

# 17 田中 絵麻 専任講師

---

## 1. 演習のテーマ

### コンテンツ産業論・ICT 政策論

日本が抱える様々な課題に取り組んでいくに当たり、情報通信技術（Information and Communications Technology: ICT）の活用が期待されています。ただし、ICT の利活用においては、技術開発のみならず、企業の活動、社会的受容やその発展をささえる制度が不可欠です。本演習では、AI 技術の導入も視野に入れつつ、ICT 技術とプラットフォームがどのように社会を変化させているのかを、主にメディア産業やコンテンツ産業を対象として、日本と諸外国の比較の視点からアプローチし、公益に資する ICT の活用とはなにか、また、ICT 産業にかかる政策のあり方を考えることをテーマとしています。一次資料に基づく制度比較の研究手法やデータ分析手法の習得を目指します。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3 年次>

- ・通年：（予定）研究方法にかかるテキストの（Roger Tourangeau 『ウェブ調査の科学』、小林信重編 『デジタルゲーム研究入門』等から指示）輪読。
- ・通年：関心テーマを設定・調査・報告し、全員でディスカッション。
- ・秋学期：個別テーマでの調査・分析を行い、ゼミ論（6000 字-1 万字）を作成・発表。

#### <4 年次>

- ・主体的なテーマ設定のもと応用的なテキストの輪読と卒論（2 万字程度）指導を行います。

### (2) ゼミ論の有無

有り（春学期資料、秋学期レポート集）。

### (3) 評価方法

<3 年次>ゼミへの参加度（30%）、グループワーク（35%）、個別報告（35%）

<4 年次>ゼミへの参加度（30%）、卒論（70%）（予定）

## 3. 使用テキスト

上述のとおり。

## 4. 応募学生に望むこと

好奇心と行動力を持ちつつ、社会に貢献する意欲のあること。

## 5. 選考方法

ゼミ志望動機にかかるレポート（メールにて提出）と面接（ZOOM）。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目（コンテンツ産業論／テクノロジーと日本）を履修していることが望ましいです。

## 7. その他

ゼミ合宿を実施する予定です。※2020 年度には 6 大学との合同オンラインゼミを実施。

# 18 田中 牧郎 教授

## 1. 演習のテーマ

日本語の歴史と現在

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

「日本語研究の基礎」を身につけ、研究方法に習熟するための活動を、「日本語の歴史」「日本語の現在」における、重要テーマを追い掛けながら、行っていきます。

**日本語研究の基礎** 音声の文字化。くずし字解読。文語文読解。コーパス分析。

**日本語の歴史** 漢字漢文の日本語化、西洋語翻訳による、日本語表現の多層化。

**日本語の現在** 新語・新文体の創成と定着過程。政治・報道・教育等の言語問題。

#### <4年次>

各自の研究テーマに基づく調査研究を進め、分析や考察のプレゼンテーションによる相互批評を重ねることで、日本語学の卒業論文を作成していきます。

**最近の卒業論文テーマ例** 古今和歌集から見る和歌翻訳、近代翻訳小説における無情物主語の翻訳、国語科と英語科における教科横断的指導のための日英翻訳比較、外国人材受け入れに関する社説を対象とした批判的談話研究、ソーシャルゲームのキャラクター言語とその日英翻訳、感情をあらわす名詞のメタファー表現。

### (2) ゼミ論の有無

有り

### (3) 評価方法

<3年次> 平常点 (30%)、発表 (30%)、レポート (40%) で行う。

<4年次> 平常点 (20%)、発表 (20%)、論文 (60%) で行う。

## 3. 使用テキスト

使用するテキストや参考文献は、その都度指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

言葉好きであること。分析や議論を楽しむこと。書くことや読むことで発見ができること。

## 5. 選考方法

面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

古典に親しむ、外国語と日本語を比べる、ニュースの言葉に関心を持つ、伝わる言葉を追求するなど、ふだんの言語活動の中で、日本語を分析する動機付けを高めておいてください。

## 7. その他

夏休みには近代日本語の形成に縁のある地（過去実績：京都、伊勢、金沢、花巻など）で合宿を行います。日本語学を専攻する大学院生との共同活動も行います。

# 19 旦 敬介 教授

---

## 1. 演習のテーマ

ラテンアメリカ文化研究。このゼミは、ラテンアメリカとカリブ海の国と地域に何か世界を変えるヒントがあるのではないかと予感している人たちが、その文学や音楽などの芸術文化、あるいは歴史や社会、生活文化の成り立ちなど、様々な領域について調査研究して教えあい、世界の認識を更新していく場である。それによって、日本がこの地域から学べることを考える。(このゼミで「ラテンアメリカ」とは、アメリカ合衆国とカナダ以外の米州全域というとらえ方をしている)

2022年度に旦は特別研究期間として授業を離れる予定なので、2021年度のゼミは3年次の単年度開講となる。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期の前半は受講者それぞれがすでにもっている知識を共有する(教えあう)期間である。その間に、自分の関心のある国や分野を決めて、秋学期からはそれについて各自の調査や研究を発表していく。それらと並行して、全員の関心に適応したテキストを手分けして読み進めながら、音楽、映画などを教室内で共有し、それについて調べ、発表し、論じあうことによって知識を広げ深めていく。

<4年次>2022年度は開講しない。

### (2) ゼミ論の有無

前項参照。

### (3) 評価方法

授業時間内の活動および調査発表活動(70%)、授業時間外の課題(30%)で評価する。

## 3. 使用テキスト

エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』(明石書店)を予定している。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは参加者が形づくるものである。自分の関心のある主題について自発的に調査するのが主眼である。「ラテンアメリカの歴史と文化」あるいは「Latin American Studies」の授業をすでに2 Semester履修していない人は、2021年度にかならず履修すること。

## 5. 選考方法

芸術文化に関するこれまでの経験や関心領域に関する面接と筆記による。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

世界の国の名前と位置ぐらいはわかる基礎的な地理の知識がないのはよくない。

## 7. その他

担当教員はラテンアメリカの現代文学の専門家だが、現在の主な関心は、ラテンアメリカ(とくにブラジル)のアフリカ系文化にある。しかし、受講者の関心に応じて提供できるものを提供する。English speaking students are welcome.

# 20 張 競 教授

---

## 1. 演習のテーマ

比較文学比較文化特別研究

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

この演習は、将来ゼミ論や卒業発表の作成を視野に入れ、比較文学比較文化に関する問題について研究を行う授業である。文学や文化の受容および変容、文化衝突の問題が主たるテーマだが、ゼミは三つの段階に分けて進める予定である。

まず、前述のテーマと関連する資料を講読し、資料の読解や分析、批評およびグループ・ディスカッションを通して、比較文学比較文化研究とは何かを理解する。

次に、ゼミで講読した資料にもとづいて、テーマを選び、ゼミ生が関連することについて調査し、その結果をゼミで発表する。

右の作業を通して、問題の見つけ方、検証および資料調査の仕方を身につける。最後に、ゼミ生が自ら課題を見つけ、資料調査などを行った上、その結果をゼミで発表する。それぞれの報告について、全員でディスカッションを行い、そうした議論を踏まえて次の課題を見つける。そうした一連の作業を通して、比較文学比較文化の基礎的な研究に必要な方法を習得する。

スケジュールは基本的にゼミ生と議論の上で決めるが、最初の数回はテーマの設定、文献調査、資料収集、現場調査、データの処理、口頭発表、論文執筆の時期や基礎的な作業の方法および研究の進め方について勉強する。

#### <4年次>

この演習は3年次の継続で、ゼミ参加者は自分の設定したテーマについて研究を行う授業である。基本的な進め方は3年次と変わらない。ゼミ論を提出する履修生には春学期に中間発表をし、秋学期のはじめにゼミ論か卒業発表の草稿を提出するのを目指してほしい。

### (2) ゼミ論の有無

ゼミ論の提出が望ましいが、必須条件ではない。

### (3) 評価方法

<3年次>平常点50%、発表50%

<4年次>平常点50%、発表および論文50%

## 3. 使用テキスト

必要なときに随時に指示。

## 4. 応募学生に望むこと

積極的に授業参加し、3年と4年の合同演習にも参加すること。

## 5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと。

特になし。

## 7. その他

合宿等はゼミ生と相談の上決まる。

# 21 長尾 進 教授

---

## 1. 演習のテーマ

### スポーツと現代社会

2020年に予定されていた、夏季オリンピック・パラリンピック大会は2021年度に延期されました。コロナ禍にあって日本や東京がこの五輪とどう向き合い、レガシーを遺せるかどうか注目されていますし、そのあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入や、Eスポーツ、スポーツとジェンダーの関係など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツや武道との関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々をめぐるとピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、皆さんが探してきたピックをもとに討議し、理解を深めます。後半は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらいます。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

### (2) ゼミ論の有無

国際日本学部は留学する人も多いので、各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々をめぐるとピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。後半は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらいます。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

### (3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）30%、プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート40%

## 3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、URLなどを、そのつど紹介します。

## 4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力を持ちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタビューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

## 5. 選考方法

募集定員をめぐるとピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。後半は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらいます。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

オリンピック・パラリンピックをはじめ、皆さんがゼミに所属する間は、ビッグイベントがあります。これらのニュースに日ごろから関心をもって接してください。

## 7. その他

冬季または春季休暇中にゼミ旅行合宿（1泊2日程度）を行います。研修先は、皆さんと話し合って選定します。

## 22 沼田 優子 NUMATA, Yuko 特任教授 Prof.

---

### 1. 演習のテーマ / Theme:

Japanese Business Organizations in the Global Market

This seminar offers a quasi-business experience with advice from business professionals as well as lectures and discussions. Third-year students will set up a virtual student company using an educational program created by one of the world's largest global non-governmental organizations established in 1919. The NGO serves more than 10million students worldwide.

### 2. 授業内容 / About the course

#### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

Students will set up a virtual student company, run a business, and liquidate it at the end of the year. Business practitioners, acting as external board members, will visit frequently to provide advice. At the end of the year, the students will organize the minutes from discussions by department, hold an annual shareholder meeting, and write an annual report before liquidating the virtual company.

#### (2) ゼミ論の有無 /Thesis

No.

#### (3) 評価方法 / Evaluation

Class Participation (40%), Gantt Chart (30%), Minutes, Presentations, and an Annual Report or equivalent (20%), and Peer Evaluation (10%)

### 3. 使用テキスト / Textbook(s)

To be announced. These will vary depending on the students' functional roles.

### 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

The seminar sessions will be in English only. All materials, lectures, class discussions, presentations, and writings will be in English. However, Japanese speakers are also welcome, as many stakeholders such as customers are likely to be Japanese. It is up to the students' company policies to address how language barriers will be overcome. Indeed, this is a common challenge for international companies. To make this seminar more manageable for Japanese speakers, I am happy to provide Japanese support outside of the class. Since we will function like a business, we will have to meet frequent deadlines. Inefficient use of time may necessitate staying/working after hours.

### 5. 選考方法 / Screening

You will need to create an English presentation that describes your business ideas, the functions in which you want to engage, and how you can contribute to the seminar.

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Taking Business Administration A & B and Practicum in Global Japanese Studies C & D is strongly recommended. Most of the content covered in those courses will be applied to the operation of the student company.

### 7. その他 / Others

This syllabus/schedule is subject to slight changes depending on participant demographics, the schedule for non-lecture activities, and ongoing business events. Students may incur small out-of-pocket expenses. **Fourth-year seminar may not be opened.**

## 23 萩原 健 Ken Hagiwara 教授 Prof.

【注意 Notice】基本的に日本語で行いますが、英語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome.

### 1. 演習のテーマ / Theme

#### “Performances” in Daily Life and Art Scenes

“I am sure I gave a good performance during the interview”. - Haven’t you heard such expression? But what is a “performance”? Doesn’t it depend on audiences, situations, countries or cultural contexts, whether a performance is good or bad? On the other hand, “performance” can be a genre of art. After watching the performance, writers report saying for example: “This performance was so bad it can be ignored.”

“Performances” in daily life and art scenes - The one in daily life can serve as a reference when thinking about the one in art scenes and vice versa. This is the core concept of this seminar. Each student is expected to research a theme related to the term “performance.”

### 2. 授業内容 / About the course

#### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

Each student is required to create a statement based on her/his own interest and then write a thesis. The core activities in each session are reporting about working processes and exchanging opinions among the students.

#### <3 年次 / 3rd Year>

[Spring semester] After some introductory activities in the first sessions, each member introduces a book or an article that interests her/him. Together with this book or article, 10 sources should be listed with short descriptions about all these sources. Then the students select quotes from the 10 sources (They should be used in the thesis) and write the statement (This will be the conclusion of the thesis). The source list with the short descriptions, the quotes and the statement will be the term paper (A) which has to be submitted at the end of the semester.

[Fall semester] The members work on the structure of the thesis based on the term paper (A). A table of contents should be written including descriptions on the content of each chapter. After finishing the table of contents, each student starts writing the thesis. In the sessions, each student introduces a part of her/his thesis. Its content and next working steps will be discussed in class. The completed thesis has to be submitted at the end of the semester.

#### <4 年次 / 4th Year>

Each student revises the submitted thesis by using 10 more sources, or writes a completely new thesis by using 20 sources. The working process is same as that of the third year.

#### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Required (3rd year: no fewer than 10,000 letters in Japanese or 5,000 words in English; 4th year: no fewer than 20,000 letters in Japanese or 10,000 words in English)

#### (3) 評価方法 / Evaluation

<3rd Year> Contributions made during each session (30%), presentations (30%), thesis (40%)

<4th Year> Spring semester: same as during the 3rd year; Fall semester: Contributions during each session (20%), presentations (20%), thesis (60%)

### 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Depending on each student’s research topic, references will be recommended in class.

### 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Active participation during class and doing homework are basic requirements. Being absent or being late for class without any prior notification will have an effect on students’ grades.

### 5. 選考方法 / Screening

Submitting a short report (approx. 1000 letters in Japanese or 500 words in English) and taking an interview. The report must be sent by email to [hagi@meiji.ac.jp](mailto:hagi@meiji.ac.jp) until two days before the day of the interview. The topic for the short report is: The relation between (a) the term “performance”, (b) your current interests and (c) your future vision after graduation. 【注意 Notice】 作文を送る際のメールの書かれ方も選考のための材料です。Please note that the style of your email will also be taken into consideration when submitting your report.

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Please read at least three books related to the topic “performance”. Every time you finish one book, please report about it (author, title, year of publication, publisher, content and your own opinion) by email ([hagi@meiji.ac.jp](mailto:hagi@meiji.ac.jp)).

### 7. その他 / Others

Depending on students’ interests, trips will be held. Students will also occasionally watch (stage) performances.



## 24 廣森 友人 教授

### 1. 演習のテーマ

#### **言語学習の心理学(Language Learning Psychology):外国語の学習を科学する**

外国語学習の成功や失敗に影響を与える学習者要因(動機づけ, 学習方法, 学習スタイルなど)について研究します。自らの学習経験を振り返りながら, より効果的な外国語学習や外国語指導の在り方について, 具体的な考えを持てるようになることを目標とします。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

4年次のゼミ論(卒論)執筆を見据えて, 演習を進める上での基礎となる3つの力(①英語力, ②研究力, ③プレゼン力)を強化します。「①英語力」は英語文献の読解, 英語でのプレゼンに加え, 英語試験の受験を通じて, 1-2年次に身につけた英語の基礎力をさらに強化します。「②研究力」は興味・関心のあるトピックを研究課題として具体化させ, 調査計画の立案・実行・評価といったプロセスをグループ単位で経験することにより, 研究の基礎力を身につけます。「③プレゼン力」は毎授業に行う3分プレゼン, 事前に分担した文献内容のプレゼン, 各種コンテストへの参加(オプション)などにより, 伝えたいことを簡潔に分かりやすく表現できる能力を身につけます。

##### <4年次>

3年次に学んだことを踏まえ, 各自が個人単位で興味・関心のあるトピックについてゼミ論(卒論)を執筆します。授業では, 定期的に各自の進捗状況を報告しあい, 他のゼミ生や教員, 院生からのフィードバックを受けます。

#### (2) ゼミ論の有無

有り

#### (3) 評価方法

出席・議論への参加状況(25%), 発表(25%), レポート(3年次) or ゼミ論(4年次)(50%)

### 3. 使用テキスト

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

### 4. 応募学生に望むこと

- ・研究室のウェブサイト(<http://hiromori-lab.com/>)を事前に確認し, 自分がやりたいことと関連があるかどうかを十分に見極めた上で応募してください。
- ・私の専門は動機づけ(やる気)です。やる気は伝染します。やる気に満ちたゼミ生を歓迎・応援します。また, (英語を含めた)勉強好きな学生, グループでの作業が好きな学生, 自分に自信をつけたい学生も歓迎・応援します。

### 5. 選考方法

小論文(テーマは「このゼミを希望する理由, このゼミで勉強したいこと」と面接。入室試験では, 志望動機に基づいた面接を行います。詳細は, 個別ガイダンスの際に指示します。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「心理と言語A・B」(ならびに関連科目「英語学」「応用言語学」「言語と文化」など)を履修しておいてほしい(あるいは, ゼミと同時に履修してほしい)と考えています。

### 7. その他

長期休業中にはゼミ合宿を行う予定です。その他, 学生の自主性と教員の思いつきによって各種行事・イベント(例:BBQ, 紅葉を愛でる会, OB・OG・現役生合同交流会)を行います。



# 25 藤本 由香里 教授

## 1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

マンガ・アニメ・ゲームなどの日本のサブカルチャーはいったいどんな特性を持ち、世界中でどのような現状にあるのでしょうか？ また、歴史的にはどう発展してきて、それを生かしていくためには、どういうことが必要なのでしょう？ この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、その表現のあり方と社会意識や文化との関係を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、具体的には、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、ジェンダーと表現などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何か「見えてくる」ときの喜びに出会ってもらいたいと思います。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

ここ数年、ポップカルチャーの市場はデジタル化の促進で激変しています。今年のゼミでは、いったい今、何が起きつつあるのか、未来のポップカルチャーはどのような形に変わっていくのかを積極的に考えていきたいと思います。また今年もBLやジェンダーの問題も積極的に検討したいと思っています。後期は具体的な<仕事>と国際性について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツをベースに発表してもらい、就活も見据えて<仕事>について考えます。

#### <4年次>

4年次においては卒業論文の準備、執筆がメインになりますが、ゼミ生の興味をにらみながら、文献講読や個人発表、グループ発表なども並行して行っていくつもりです。合宿や課外活動等については3年次のゼミ生や院生と一緒にすることもあります。

### (2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作します。毎年、一般来場者も多い卒論発表会を行っており、卒論集はコミケ（コミティア）で売ります。重版を重ねています。

### (3) 評価方法

発表（50%）、ディスカッションへの貢献度（40%）、その他（10%）。

## 3. 使用テキスト

東浩紀『動物化するポストモダン』『観光客の哲学』、マーク・スタインバーグ『日本はなぜ<メディアミックスする国>なのか？』クリス・アンダーソン『フリー』、落合陽一『魔法の世紀』、増田弘道『デジタルが変えるアニメビジネス』、島田一志『マンガの現在地』など。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

## 5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

## 6. ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』ABは入室までに受講しておくことが望ましい。必修等でどうしても取れない場合は、入室後すみやかに履修すること。『ジェンダーと表象』Aも受講することが望ましい。

## 7. その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。3年次は京都国際マンガミュージアムを含む関西方面のことが多いですが、秋田に行ったこともあり、4年では仙台・箱根・上諏訪……など多彩です。

## 26 溝辺 泰雄 教授

### 演習のテーマ：「地域研究(Area Studies)：旅と音楽から世界を知る」

2021-22 年度の溝辺ゼミは、「世界の音楽」をテーマに、世界と日本の文化理解を深めることを目指します。演習の参加者がアフリカを含む世界各地へそれぞれ個別に赴き、そこで触れた音楽を通して、文化や歴史、さらには政治や国際関係に関する諸問題を考えていきます。毎週のゼミの時間では、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、学内/学外のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの経験だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「音楽」に関するさまざまな出版物を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

### 1. 演習内容

#### (1) 演習の進め方

2021 年度末の成果報告と 2022 年度末に予定している「世界の音楽」をテーマにした本の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。具体的な活動内容は下記でも紹介していますので、入室を検討されている方はぜひお読みください：<https://bit.ly/3gmPvSr>

また、これまでのゼミ生の活動は次のリンクからも確認できます：

[https://www.instagram.com/meiji\\_africa\\_seminar/](https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/)

#### 【主な行事】

- 料理会(4月と12月頃)：自分たちでテーマを決め、食と音で世界を旅します。
- 学外実習(6~7月頃もしくは12~1月頃)：個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道、鹿児島、佐渡島などでした)。
- 研究活動発表会(2月)：自分たちで食と音をコーディネートしながら1年間の活動報告会をおこないます。
- 旅本の作成と出版(4月~2月)：「旅」を通して得た学びを1冊の冊子にまとめます。

ゼミの任意のメンバーで、アフリカのコーヒーやカカオなどの学びを通じた喫茶(カフェ)文化の探求もおこなっています。「喫茶部」の活動は下記のページで紹介しています：

[2019年度] <https://medium.com/club-de-caf%C3%A9>[2020年度] <https://note.com/afkencafe2020>

#### (2) 卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでに、アフリカ滞在の旅行記・写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける「論文ゼミ(アフリカ研究会)」において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。研究のテーマはアフリカやその他世界の諸地域に関する内容であれば、衣食住から歴史文化(音楽も含みます)、政治経済など自分の関心に応じて設定することが可能です。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：<https://africakenkyukai.myportfolio.com/>

(3) 評価方法：演習活動への積極性に基づき評価します。

2. 使用テキスト：入室決定後にお伝えします。

#### 3. 応募学生に望むこと

参加の条件は、国内外の「旅」と「音楽」への強い関心と世界のさまざまな課題を探求し、学ぶ意欲の有無です。世界の諸文化に対する先入観にとらわれていない方々のご参加を歓迎します。また、可能であれば、個人旅行(もしくは留学・スタディーツアー・インターンシップ)などの機会を利用してサハラ以南アフリカでの生活を経験してもらいたいと考えています(ただし、必須課題ではありません)。これまでに40名を超える学生が、アフリカのさまざまな国々を訪れています。彼らの旅の一部は以下のサイトで紹介しています：

<https://africakenkyukai.myportfolio.com/travels-1>

4. 選考方法：書類審査と面接(Zoom)で選抜します。

#### 5. 演習入室までに学習してほしいこと

いろんなことに好奇心を持ち、気になったことは自分で調べたりやってみたりする気持ちを大切にしながら日々の学びを楽しんでください。

# 27 宮本 大人 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

3～5名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、6000字から10000字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに3泊4日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

#### <4年次>

3年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、4年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は3年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに2泊3日の卒論合宿を行う。課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にを行う。

### (2) ゼミ論の有無

有り。20000字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

### (3) 評価方法

発表（30％）、ディスカッションへの貢献度（30％）、期末の課題（30％）、平常点（10％）。

## 3. 使用テキスト

そのつど指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にplayするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

## 5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

## 7. その他

# 28 森川 嘉一郎 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまな調査・研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、音楽 CD、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。なお、オンラインとなる場合でも、こうした内容や下記の進め方を、各々が希望する方法で行うことに変わりはない。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

各学期の前半は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。学期後半はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、各学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

#### <4年次>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにしなが、研究計画を再構築し、研究の範囲に歴史的・社会的な奥行きを与え、創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

### (2) ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

### (3) 評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

## 3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ (<http://edu.a.la9.jp/>) を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

## 5. 選考方法

作文とメールによる質疑（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。留学中の場合は別途案内する）。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみるのが望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

## 7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

## 1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

Studies on *manga*, *anime* or games are relatively new to academia. Students are encouraged to devise creative methods to accomplish fruitful research.

The seminar also offers an option to let the students produce artistic works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, and making computer games. Regardless of whether the seminar is to be online or not, students are to pursue their own themes in their own ways, following the guideline below.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

#### <3 年次 / 3rd Year>

In the first half of the semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second half of the semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

#### <4 年次 / 4th Year>

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce artistic works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

### (3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation (40%)、Semesterly presentation (40%)、Attitude (20%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: <http://edu.a.la9.jp/>

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

## 5. 選考方法 / Screening

Essay and interview via e-mail.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing artistic works, give it a try right away.

## 7. その他 / Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

## 29 山脇 啓造 教授

---

### 1. 演習のテーマ

多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、多文化共生への関心を高める東京都や中野区など行政や企業、NPO と連携して、多文化共生をテーマにした動画を制作したり、オンラインでのワークショップなどイベントを実施します。地域密着、実践志向で社会への発信に力を入れるゼミです。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

**<3年次>** 最初の1、2カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、多文化共生をテーマにした動画制作やイベント開催に取り組みます。

**<4年次>** 多文化共生をテーマにした動画制作やイベント開催に取り組みます。

#### (2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は8000字程度）。

#### (3) 評価方法

ゼミ活動への貢献を総合的に評価。（3、4年共通）

### 3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

### 4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生（ET生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

### 5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の3日前までに提出してください：<http://intercultural.c.ooco.jp/index.php/vision/seminar>）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。（留学中の学生も原則としてオンラインで面接を行います。）

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」の履修。

### 7. その他

入室希望者は、必ず、演習案内ビデオに目を通し、個別ガイダンスに参加してください。状況が許せば、3年次の4月下旬に国内合宿、8月下旬に海外合宿を行う予定です。イベントは、3年と4年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

## 30 横田 雅弘 教授

---

### 1. 演習のテーマ

#### ダイバーシティ推進のまちづくり

「異文化」を「国際」に限らず、国内の多様性も含む「文化際」の概念で捉え、これをダイバーシティの推進として具体的に中野区で実現していく活動に参加します。いろいろなマイノリティの団体の他、行政、企業、NPO、学校など多様なステークホルダーと一緒に、基本的に対等な立場で参加する現場生成型教育です。個々の実践に耳を傾けながら、全体のシステムにも配慮して、理論と実践を総合した観点や動き方を身につけます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

基本的な文献を読んだ後、現在横田が取り組んでいる中野区のダイバーシティ推進プロジェクトと一緒に参加します。具体的には、これまでばらばらに活動していた性的マイノリティ、外国人、障害者、高齢者などに関連する地域の団体や個人、商店街や企業、そして行政をつなぎ、その活動に参加したり、新しい活動を始めたり、中野区のダイバーシティ状況を評価(ウォッチ)する仕組みを創ったりする活動です。

##### <4年次>

3年次の活動でつながった人たちへのインタビューを集め、中野ダイバーシティ・オーラルビデオマップ(仮称)を作成し、既存のHP([ndp.tokyo](http://ndp.tokyo))にアップします。

#### (2) ゼミ論の有無

中野ダイバーシティ・オーラルビデオマップ(仮称)をゼミ論とします。

#### (3) 評価方法

各種活動の報告や企画運営など、ゼミ活動への貢献を総合的に評価します。(3、4年共通)

### 3. 使用テキスト

テキストは特にありませんが、まちづくりや参加する活動に応じた著書・論文等を授業の中で紹介します。

### 4. 応募学生に望むこと

ダイバーシティとまちづくりに主体的に関わりたい方を歓迎します。授業時間外にイベントに参加あるいは主催する場合もあり、サークル等を理由とした欠席は原則認めません。

### 5. 選考方法

志望理由書と面接で選考します(詳細は個別ガイダンスの際に指示します)。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「異文化間教育学」を履修した／することが望ましいです。

### 7. その他

入室希望者は、必ず演習案内ビデオとHP([ndp.tokyo](http://ndp.tokyo))に目を通し、個別ガイダンスに参加してください。合宿は学生の希望やコロナの状況等をみて判断します。



# 31 渡 浩一 教授

---

## 1. 演習のテーマ

「ニッポンの歴史と文化」をテーマとします。

日本の歴史と文化を国際日本学的な視野から見つめ直し、日本・日本人・日本文化について考えてみたいと思います。

ちなみに、渡の主な関心研究領域は、日本人の信仰と文化、外国人の見た日本・日本人、外来文化の日本の変容、日欧文化交流史などで、時代的には中世～近代（明治）と広く関心があります。研究のキーワードは江戸文化・日本人論・日本文化論・死生観・冥界観・日本仏教・家制度・唱導・絵解き・地蔵・地獄・子ども・南蛮文化・キリシタン・イソップ寓話・阿蘭陀人・和食などです。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期はテキストを議論しながら輪読していきます。必要に応じて、議論を踏まえた発表・討論も随時行います。秋学期はそれを踏まえ、学生と相談しながら進め方を決めたいと思います。

#### <4年次>

春学期は、ゼミ論の構想を練り上げ、その執筆準備をしていってまいります。秋学期は、ゼミ論の執筆とその中間報告をしてもらい、1月に提出してまいります。

### (2) ゼミ論の有無

20,000字以上の論文を提出してもらいたいと考えています。

### (3) 評価方法

<3年次>                    テキスト読解・発表（50%）    発言回数・内容（50%）

<4年次春学期>        テキスト読解・発表（50%）    発言回数・内容（50%）

<4年次秋学期>        論文（80%）    発言回数・内容（20%）

## 3. 使用テキスト

ニッポンの歴史と文化について考えるのに有用と思われる文献を学生と相談してテキストとして選びたいと思います。

## 4. 応募学生に望むこと

「自ら調べ、自ら学ぶ」という姿勢で研究に取り組んでほしいと思います。

## 5. 選考方法

面接によります。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

基本的な日本史の知識は身につけておいてほしいと思います。

## 7. その他

ゼミ生は3年生0名、4年生4名です。これまで応募者無し、応募者1名のみということは何度かありました。一人になっても構わないという人は応募してください。

## 32 ワルド ライアン 専任講師

---

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

### 1. 演習のテーマ

「死」の日本宗教史

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史における「死」の意味合いとその歴史の変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

進行形式としては、日本の宗教史と「死」の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

##### <4年次>

同上

#### (2) ゼミ論の有無

有り

#### (3) 評価方法

<3年次> 平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

### 3. 使用テキスト

プリントを配布する。

### 4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

### 5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

### 7. その他

ゼミ合宿（場所検討中）を行う予定です。

# 32 WARD, Ryan Senior Assistant Prof.

---

## 1. 演習のテーマ / Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death. The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

#### <3年次 / 3rd Year>

The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

#### <4年次 / 4th Year>

Same as above.

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes

### (3) 評価方法 / Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Various handouts will be distributed in class as needed.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

## 5. 選考方法 / Screening

Interview will be prepared.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

## 7. その他 / Others

Seminar events will be announced.

## 2021 年度 国際日本学部演習案内

2020 年 11 月 2 日

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1